

硬膜外無痛分娩の説明書

硬膜外無痛分娩とは、硬膜外麻酔という鎮痛法によって陣痛をやわらげ、経膣分娩を乗り越える手助けをするものです。痛みが和らぐため、体力の消耗が少なく、分娩後の体力の回復が早いといったメリットがあります。また、循環器疾患や脳神経疾患などがある方の身体への負担を少なくするため行うこともあります。しかし、麻酔薬が多くなると、運動・知覚麻痺による不快感、分娩時の努責のタイミングがわかりにくく、力が入りにくいといったこともおきます。そのため、厳密には完全な無痛ではなく、ご本人に負担ではない程度に痛みをとることを目的としています。

無痛分娩の方法と注意点

- ・麻酔方法は硬膜外麻酔とあって、脊椎の中の硬膜外腔という脊髄を包んでいる袋の外の空間に細いチューブ(カテーテル)を挿入し、痛みの程度に応じて出産まで持続的に局所麻酔薬を注入する方法です。痛みの程度に応じて薬の量や種類を調節します。
- ・自然陣痛の場合でも、計画分娩で陣痛を誘発する場合でも、規則正しい陣痛が来て、『痛みを和らげて欲しい』と希望したときに、状況を判断して無痛分娩を開始します。子宮の入り口が4-5cm開いた時点での開始が目安になります。
- ・通常は薬剤の調整で痛みが和らぎますが、効果が不十分である場合には、硬膜外カテーテルを入れなおす場合があります。
- ・急激に分娩が進行した場合、強い痛みのため麻酔の体位をとれない場合があります。そのような場合では硬膜外麻酔(無痛分娩)ができない場合があります。
- ・麻酔の効き方には個人差があり、満足する除痛効果を得られない場合もあります。
- ・母児に危機的な問題が発生した場合、安全性を優先し無痛分娩を行わない場合があります。
- ・休日や夜間帯等、病棟の管理上の問題で硬膜外カテーテル留置、麻酔導入、麻酔薬投与ができない場合があります。

無痛分娩中の制限

- ・絶飲食：誤嚥(嘔吐物が気管にはいること)の危険性を減らすため、有効陣痛発来後は原則絶飲食とします。クリアウォーターは摂取できますが、緊急帝王切開の可能性が高くなった時点で中止することがあります。
- ・ベッド上安静：麻酔により足の力が入りにくくなることがあるので、原則ベッド上安静となります。
- ・導尿：麻酔による影響で排尿困難となることがあるので、約3時間毎に導尿をします。

- ・母児の全身状態把握のため、薬剤投与中は、心電図・血圧・酸素飽和度・胎児心拍モニタリングを行います。

硬膜外無痛分娩の合併症

- ・陣痛が弱くなるため、分娩時間が長くなります。陣痛促進剤を使用するケースが多くなります。また、努責のタイミングがわかりにくく、力もはいらにくいので、吸引分娩や鉗子分娩になる可能性が高くなります。ただし、帝王切開となる確率は上昇しません。
- ・分娩時間が長くなることにより産後の出血が増加する可能性が高くなります。
- ・硬膜外麻酔の影響で38°C以上の発熱を起こすことがあります。
- ・急に血圧が下がる場合があります。極端に血圧が下がった場合、母体から胎児への血流が悪くなり、胎児の心拍数に影響がでます。血圧を上げる薬を使用する等で対応します。
- ・無痛分娩を開始した直後に胎児の心拍数が低下することがあります。酸素投与等適切に対応することで、胎児に影響をすることはほとんどありませんが、胎児心拍数が回復しない場合には、緊急帝王切開を行うことがあります。

硬膜外カテーテル留置、硬膜外麻酔による合併症

- ・吐き気：使用する薬の種類によって吐き気を感じることがあります。薬の投与を中止すると数時間で回復します。
- ・頭痛：約1%程度で麻酔の影響による頭痛がおこることがあります。多くは1週間以内によくなります。
- ・排尿障害：尿意がわからない、うまく排尿できないなどの症状があらわれることがありますが、症状が退院時まで持続することは非常に稀です。
- ・かゆみ：多くの場合我慢できないようなかゆみではありません。
- ・神経障害：下肢の一部に感覚異常(下半身の感覚鈍麻・力のはいらにくい・しびれ)などが起こることがありますが、通常は6ヵ月以内に自然治癒します。無痛分娩との直接因果関係のない分娩そのものに起因するものもあります。
- ・チューブの抜去困難・遺残：チューブの抜去が難しく、抜去する際に断裂し、体内に残る可能性があります。抜去のため外科的手術が必要となることがあります。

稀ではあるが重篤な合併症

- ・局所麻酔中毒：局所麻酔薬の過量投与や血管内への注入などが原因で起こります。初期症状として口のしびれや耳鳴りがおこります。血管内投与の場合は痙攣が起こることもあります。適切な初期対応で重篤になるのを防止する必要があります。

- ・全脊髄くも膜下麻酔：硬膜外麻酔で使用するカテーテルがくも膜下に迷入することにより起こります。局所麻酔使用後に急に足が動かなくなったり、腕までしびれが広がったり、息が苦しくなるような症状が起こります。適切な初期対応で重篤になるのを防止する必要があります。
- ・硬膜外血腫・膿瘍：硬膜外麻酔で背中に針を刺すときやカテーテルの挿入や抜去時に、硬膜の外に血腫(血のかたまり)ができて、神経を圧迫することがあります。硬膜外膿瘍はカテーテルを入れたところに発生するうみのかたまりです。血腫と同様に、神経を圧迫して感覚や運動を麻痺させることがあります。起こった場合は、画像診断と手術による除去が必要となります。
- ・薬剤アレルギー・アナフィラキシーショック：薬剤に対するアレルギーが原因で起こります。適切な初期対応で重篤になるのを防止する必要があります。

胎児への硬膜外麻酔の影響

硬膜外麻酔は、胎児に悪影響を直接与えることはありません。しかし、母体に麻酔合併症が発生した場合、胎児もその影響を受けることがあります。

当院の無痛分娩料金

当院では無痛分娩の費用として、通常の出産費用に加えて 10 万円をいただいております。このなかには無痛分娩に使用する特殊な針や麻酔薬の料金も全て含まれております。

代替治療法などの内容と利害損失

- ・重篤な母体合併症や胎児異常が疑われる場合、多胎妊娠等は硬膜外無痛分娩の適応とはなりません。詳細な硬膜外無痛分娩適応の判断については、麻酔科医師と協議の上、決定します。
- ・合併症の出現時には必要に応じて適宜対応いたします。

硬膜外無痛分娩同意書

私は、患者 _____ 様 (ID: _____) に対し、

実施する麻酔について別紙「硬膜外無痛分娩 説明書」のとおり説明しました。

同意を撤回する場合の対応

- ・ 今回の硬膜外無痛分娩に関する同意を実施する前に撤回することはできません。
同意を撤回しても引き続き当院で治療うけていただけます。
- ・ ご希望があればセカンドオピニオンなどについてもご相談も可能です。

年 月 日

医師名： _____

職員同席者： _____

同席なし

だいでうクリニック・大同病院長 殿

私は別紙「硬膜外無痛分娩 説明書」上記のとおり説明を受け理解しましたので、

その実施に同意します。

また、今回の診療行為を行う上で必要な処置、及び予期されない状況が発生した場合には、それに対処する緊急処置を受けることも併せて同意します。

年 月 日

本人署名： _____

代諾者署名： _____

(本人との関係： _____)